

2023 年度第 2 四半期 決算報告

説明要旨

2023 年 10月27日

【説明会資料】

<https://www.zeon.co.jp/ir/financial/bs/pdf/231027.pdf>

【説明内容】 (取締役常務執行役員 曾根 芳之)

p. 2 2023 年度 Q2 (第 2 四半期) 総括とセグメントの概況

総括：Q2 連結実績は対前年同期で減収減益、対前期で増収減益。原料価格は国産ナフサ、アジアブタジエンともに下落、為替は円安。2023 年度業績予想について、当期純利益を除き下方に修正。

エラストマー素材の概況：合成ゴムの YoY 出荷量は横ばい、化成品は粘着テープ市場の需要回復遅れ、ラテックスは引き続き手袋需給緩和の影響を受け、YoY は減収減益。合成ゴムは汎用中心に QoQ で出荷増えるも、販管費の増加、化成品の固定費単価悪化等の影響を受け、QoQ は増収減益。

高機能材料の概況：高機能樹脂は、大型フィルムおよび光学用途樹脂の出荷回復あるも、中小型フィルムおよび医療その他樹脂の出荷低調で、YoY、QoQ ともに増収減益。高機能ケミカルは、電池材料の海外関連会社の期ズレ影響等で YoY は減収減益、QoQ は顧客稼働率の回復に伴い増収増益。

p. 3 2023 年度 Q2 の事業環境 (為替・主原料推移)

為替は米ドル・ユーロともに対前年同期、対前期とも円安に推移。

主原料価格については、国産ナフサ価格は、エチレン市況低迷によるナフサクラッカーの減産、アジアブタジエンは誘導品の市況低調が継続したこと等により下落。

p. 5 2023 年度 Q2 業績サマリー (全体)

四半期実績、売上高は 935 億円、営業利益は 33 億円となり、対前年同期で 63 億円の減収、61 億円の減益、対前期で 16 億円の増収、28 億円の減益。

p. 6 2023 年度 Q2 業績サマリー (セグメント別)

売上高は、エラストマー素材が 525 億円と、対前年同期で 54 億円の減収、対前期で 3 億円の増収、高機能材料が 262 億円と、対前年同期で 3 億円の減収、対前期で 10 億円の増収。

営業利益は、エラストマー素材が 12 億円、高機能材料が 26 億円と、両セグメントともに対前年同期、対前期ともに減益。

p. 7 2023 年度上期 業績サマリー (セグメント別)

エラストマー素材は上期予想に対して売上高 12 億円の上振れ、営業利益 2 億円の振れ、高機能材料は上期予想に対して売上高 1 億円の振れ、営業利益 14 億円下振れの結果。

対予想比で増減が大きい高機能材料の営業利益は、光学樹脂および中小型フィルムの出荷減が要因。詳細は、後半の出荷量推移のページでご説明する。

p. 9 エラストマー素材 概況

エラストマー素材の売上高は、化成品の主用途であるテープ市場の需要回復遅れの影響を受け、YoY で 9%減少。一方で、合成ゴムの出荷量が汎用ゴムを中心に QoQ で 9%増加した結果、QoQ の売上高はほぼ横ばいの仕上がりとなった。

p. 10 エラストマー素材 P/L

表の出荷量は、22 年度第 2 四半期の出荷量を 100 とした指数でお示ししている。

合成ゴムは YoY ではほぼ横ばい、ラテックスおよび化成品は流通在庫過多の状況が続き、出荷は低調。その結果、エラストマー素材事業全体の出荷量は対前年同期で減少、対前期では横ばいとなった。

売上高は、前ページで説明済のため割愛。

営業利益は、市況価格の下落、販管費の増加、ならびに水島工場定修による固定費単価の悪化等により、エラストマー素材事業全体として YoY、QoQ とともに減益となった。

p. 11 エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (QoQ)

数量差は、化成品とラテックスの出荷量減少により、2 億円悪化。価格差は原料下落や市況悪化に伴い 18 億円の悪化、為替差は円安影響で 10 億円良化、原価差は原料価格下落の影響等で 3 億円良化。この 3 要素の合計で、5 億円の悪化が残るが、要因は化成品事業であり、合成ゴムとラテックスはバランスしている。なお、原価差には、棚卸資産関連費用 6 億円の悪化を含む。販管費差は、シンガポールの定修時ユーティリティ費用の計上や海外拠点での人件費・業務委託料等の高騰により、6 億円悪化。以上の合計で、営業利益は 13 億円の悪化となった。

p. 12 エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (YoY)

合成ゴム、ラテックス、化成品のいずれも出荷量が減少し、数量差は 24 億円の悪化。また、原料価格の下落および市況の悪化により販売価格は下落し、価格差は 63 億円悪化。為替差は 21 億円良化、原価差は、原料価格が下落しているものの、エネルギー費用および定修費用が高騰しており、18 億円悪化。販管費差は海上運賃軟化により、27 億円良化。以上の合計で、営業利益は 57 億円の悪化となった。

p. 14 高機能材料 P/L

高機能樹脂は、大型フィルムおよび光学用途向け樹脂の出荷回復により、対前年同期、対前期ともに増収、中小型フィルムおよび医療その他向け樹脂の出荷低調により、対前年同期、対前期ともに減益。

高機能ケミカルは、電池材料において、海外関連会社の出荷が低調であった期を連結したこと等により、対前年同期は減収減益となったが、7-9 月における顧客稼働率の回復に伴い、対前期は増収増益となった。

p. 15 高機能材料事業：要因別 営業利益差異 (QoQ)

数量差は、医療その他向け光学樹脂や中小型フィルムの出荷減の影響を受けたものの、電池材料の出荷増に加え、化学品、大型フィルム、光学用途向け光学樹脂の出荷増により 4 億円の良化。価格差は、光学フィルム内の品目構成差により 3 億円の悪化、為替差は円安により 3 億円の良化、原価差は光学フィルムの棚卸資産関連費用 6 億円が発生したため、7 億円悪化。販管費差は、新規研究および新製品の販売強化を図っていることから、12 億円の悪化となった。以上より、営業利益は合計で 14 億円の悪化となった。

p. 16 高機能材料事業：要因別 営業利益差異 (YoY)

数量差は、電池材料および大型フィルムを除き、出荷が振るわず、35 億円の悪化。一方で、価格差は化学品、光学樹脂の販売価格改定により 14 億円の良化、為替差は円安影響で 7 億円良化した。原価差は、エネルギー費用および定修費用高騰の影響で 22 億円の悪化、販管費差は QoQ と同様に新規開発費用等が増加し、15 億円の悪化。以上より、営業利益は合計で 50 億円の悪化となった。

p. 17 高機能ケミカル事業：電池材料の状況 (出荷量)

EV 向けは、中国のお客様において、在庫調整を終え稼働率が緩やかに回復しており、対前年同期で 122%、対前期で 134%と、いずれも出荷量増となった。

民生他向けは、モバイル端末向けで中国の電池メーカーの生産調整による底打ちから回復傾向にあり、対前年同期で 150%、対前期で 107%と、いずれも出荷量増となった。

p. 18 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況（出荷量）

光学用途向けは、一部顧客における在庫調整に目途がついたことで出荷が回復し、対前年同期で 109%、対前期で 134%の出荷量増。需要は徐々に回復してきているが、下期にかけても持続した回復を期待できるか、注視する。

医療その他向けは、水島工場の定修に伴い出荷調整を行っていたことに加え、半導体市場の停滞による半導体容器向けの出荷減、また医療向けにおいて一部顧客の在庫調整の影響などを受け、YoY・QoQ ともに出荷量は減少。

p. 19 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況（出荷量）

中小型向けは、タブレットおよびノート PC の生産台数の減少、スマートフォンの生産開始時期が遅れたことに伴い、当社フィルムの出荷ピークも前年比で遅れている。これらの影響により、出荷量は対前年同期で 73%、対前期で 86%となった。

大型向けは 22 年度第 2 四半期から行われたテレビメーカーの生産調整から回復し、対前年同期で 277%、対前期で 104%の出荷量増となった。

p. 21 B/S 概要

流動資産は、販売価格改定による債権の減少、および水島工場定修を終え、高機能材料製品を中心に積み増し在庫の払い出しを行ったことで、90 億円の減少。固定資産は、有形固定資産の取得および投資有価証券の時価評価益を中心に 218 億円の増加。主要因は、ゼオンケミカルズアジア社の連結追加、高機能樹脂関連の投資。結果、総資産は合計 5,357 億円となり、対前年度比で 128 億円増加。一方で、流動負債は、原料価格や物流費の鎮静化などにより 70 億円減少、固定負債は 26 億円の増加。以上より、純資産は 173 億円の増加となった。

p. 22 C/F 概要

第 2 四半期は、営業キャッシュフローが+228 億円、投資キャッシュフローが▲176 億円となり、フリーキャッシュフローは+52 億円となった。営業キャッシュフローは、第 1 四半期はマイナスだったが、水島工場定修を終え運転資金が改善し、プラスに戻っている。財務キャッシュフローは▲38 億円となり、トータル CF は、+14 億円。

p. 24 2023 年度 事業環境 エラストマー素材

エラストマーの下期事業環境は、中国経済低迷による影響が重く、エンドマーケットの需要回復も鈍い。これに伴い、当社の業績も当初予想と比較し伸び悩むものと見込んでいる。

p. 25 2023 年度 事業環境 高機能材料

高機能材料の下期事業環境は、医療その他向け光学樹脂について、大規模ではないものの顧客の在庫調整が 23 年度中は継続するとともに、半導体市場低調の影響を受け、出荷は伸び悩む見込み。

光学フィルムは、当初予想においてタブレット・ノート PC の生産を 22 年度並みの前提としていたが、顧客での生産下方修正が発生。

電池材料は、下期も継続的な在庫調整からの回復を見込むが、当初予想より緩やかな回復となる見込み。これらの事業環境を踏まえ、本日業績予想修正を発表した。

p. 26 **業績予想**

最新の年間業績予想を、売上高 3,800 億円、営業利益 205 億円に修正。

p. 27 **2023 年度 配当金予想**

配当金予想は、中期経営計画でお示しした株主還元方針に沿って、中間 20 円、期末 20 円、年間 40 円 を据え置き、2010 年度から 14 期連続の増配となる見込み。

以上